悠久の時の流れの中で、市民の「絆」と「創造」と「交流」を育み守る「場所」をつくる。

地域の古民家の“焼杉の黒”をイメージした外観に、旧北上川の流れを表した大屋根をあしらい、山並みの緑に映える“石巻らしい”デザインを追求します。

石巻市のシンボルにふさわしい全景イメージ

課題1）広域での土地利用に対応した敷地の考え方：

地域に絆・創造・交流の波及効果をもたらす多重のリングを形成

[①広域を見据えた土地利用]

「心と体の豊かさ」を提供する第3の地域の形成

新旧市街地の2極構造から調和のとれた3極構造となり、これからの石巻の生活に潤いを与えます。

[②広域の市民に親しまれるランドスケープ、生態系に配慮した植生計画]

丘、坂、築山など起伏に富み、動きのあるランドスケープ

- 子供が安心して遊べる「芝生の丘」をはじめ、散策やジョギングする楽しみを提供する起伏に富んだ「ゆらゆらの庭」を創出します。
- 地域を感じとれる地域性種苗の木々や緑花が人々を癒し、元気づけます。

周辺施設との連携を意識したオープンスペースの提供

- 運動公園や学校から立ち寄りやすい「ようこそテラス」を設けます。

[③広域交通を担う自動車動線と安全な歩行者動線の調整]

周辺地域に配慮した車と人の動線

- 建物を敷地中央に配置し、車両は北側から、歩行者は南側からと歩車分離を明快にします。南側にはカフェや生涯学習機能と一体利用可能な「ゆらゆらの庭」を計画し、憩いの場を提供します。

歩行者や自転車のよりつきも意識したアプローチの整備

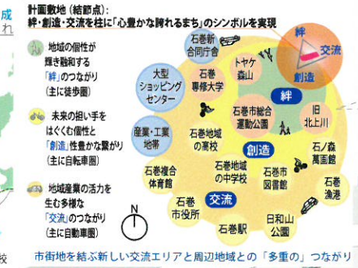
- ようこそテラスからの寄り付きは歩行者専用とします。エントランスや駐輪場は東西両側に配置しどちらからもアプローチし易くします。

実需要に応じた柔軟な駐車場計画

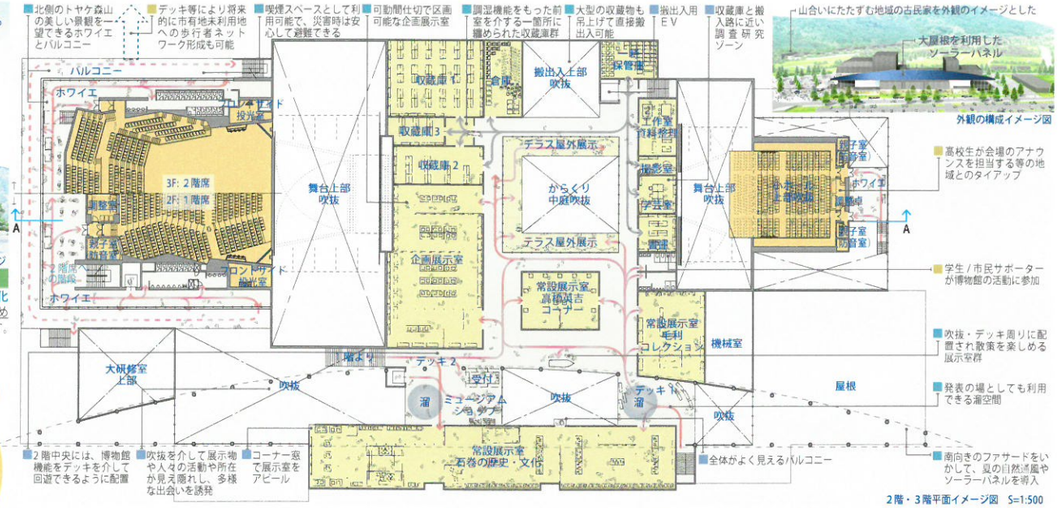
- 常設の駐車場は260台程度にコンパクト化して日常の駐車場利用を賄います。イベント等における需要UP時には外周の緑地帯が臨時駐車場となり、400台規模の台数を確保します。

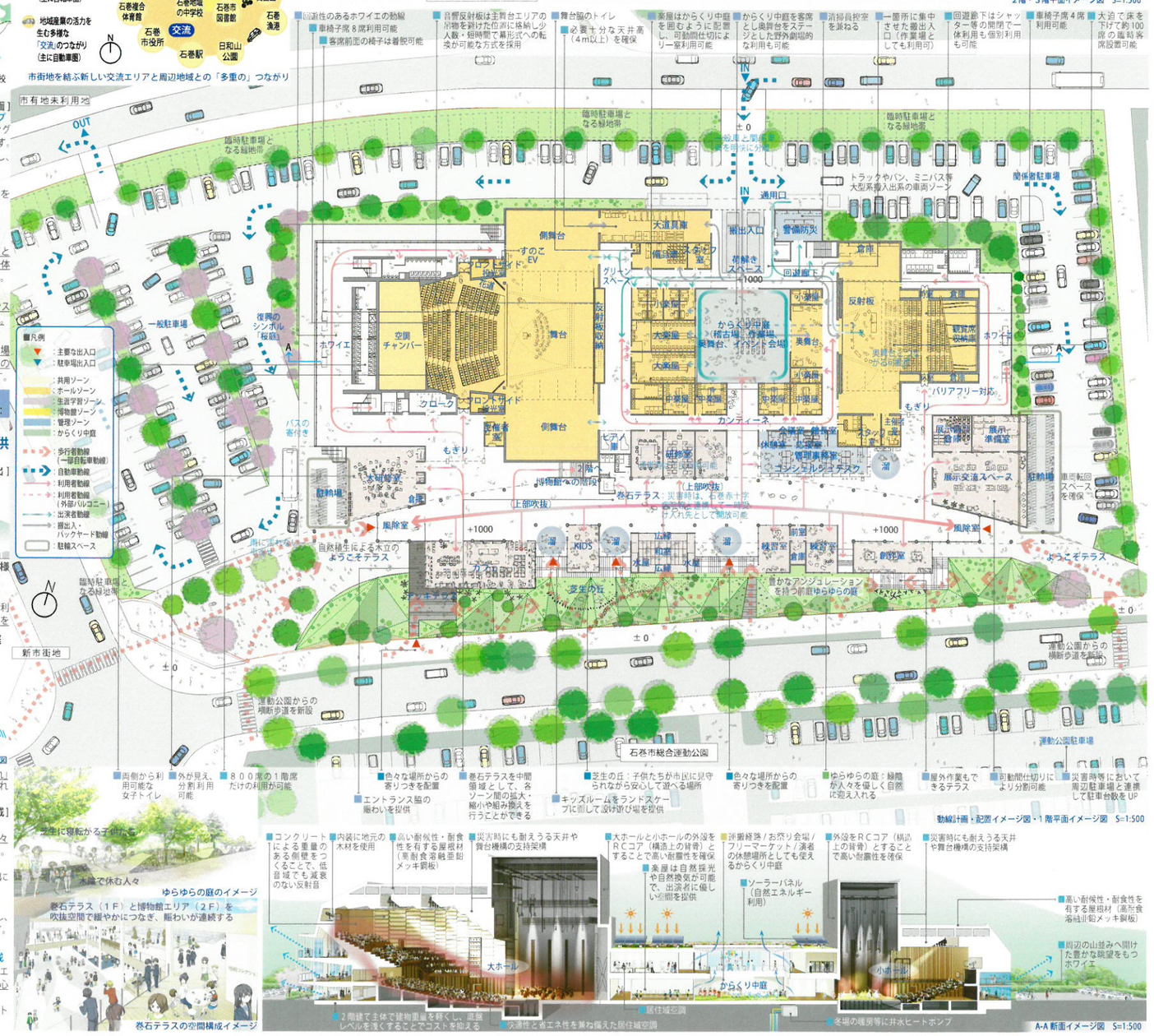
多重のつながりを活かしてまちの賑わいや往来を活性化

徒歩、自転車、バス、車で往来する人々が、絆・創造・交流を育めるオアシス（拠り所、休憩場所、居場所）となる施設を目指します。



市街地を結ぶ新しい交流エリアと周辺地域との「多重の」つながり

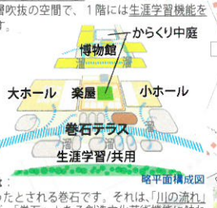




[④広域の市民が集う、多様な出会いを生む動線計画]

石巻の巻石を手がかりとした建築を創造

- 施設南側に東西に流れる「巻石テラス」を設け、誰もが自由に利用できる空間とし、2層吹抜の空間で、1階には生涯学習機能を巻石の如く散在させます。
- 楽屋と博物館中央の「からくり中庭」は多様なイベントが可能な空間とし、楽屋は「からくり中庭」の周囲に配置し、回遊可能な構成とします。



ここで意味する巻石とは：

石巻の地名の由来となったとされる巻石です。それは、「川の流れ」に見立てた市民の営みが、「巻石」となる創造文化芸術機能に触れて、新しい賑わいの波と「溜」を作り出す交流拠点となります。

[③持続可能で自立的なマネジメントを可能にする冗長性の高い空間構成]

全ての空間を幅広い時間帯で市民に提供

- 建物全体で回遊動線を構成し、適切なセキュリティのもと様々な時間帯・曜日で市民にサービスを提供できる施設とします。

巻石テラスを介した柔らかい施設ゾーニング

- 巻石テラスに散在させた生涯学習機能と溜は、市民要望に対応して柔軟に変化可能な設定とします。

市民参加型の活動拠点づくり

- 体験学習やワークショップを通してサポーターや技術者を育成し、施設運営の一部を担えるグループの活動拠点を提供可能とします。

[④災害時においても防災機能を果たし得る各空間構成]

日常的に利用する空間が災害時に「拠り所」となる空間構成

- 災害時には巻石テラス、生涯学習ゾーン、大小ホールのホワイエを一時受入施設として活用し、外部が見える空間は避難者に安心感を提供できます。
- 大ホールは高度な破損防止措置や機能継続性を確保し、イベントの早期再開を通じて市民活動を促します。

課題3）それぞれに要求される複雑な機能を実現する空間性能：

1405

高度な専門性と滞在型の界隈性を兼ね備えた「身近な」公共空間

[①様々な演目に対して最適な音響空間を実現できる質の高いホール]

「演じやすく」「聴きやすく」「見やすい」大ホールとして、豊かな音場をつくる音響設計と客席構成

- オーケストラ、吹奏楽、ロック、ポップスから、ミュージカル、オペラ、歌舞伎や日本舞踊、講演会などすべての演目において理想的な体験を提供するため、音の「明瞭性」と「残響」のバランスを最適化します。
- 劇場の気積を10㎥/人以上確保し、豊かな響きを届けます。
- 視覚的にも温かな音を届けるため内装材や色、形状を幅広く検討します。
- 効率良く搬出入できる舞台と同レベルの荷捌場とピアノ庫等を用意します。

客席性に優れた千鳥配置型の大ホール

多様な演目に対応するホールの可変性・拡張性

- 室形状はシューボックス型とし、フライタワーを持ち、音楽、演劇、和物、落語、講演、ワークショップ、展示等多目的利用に対応できます。
- 客席は収納可能な移動観覧席とサイドバルコニーで構成し、観覧席収納時は平土間となり、ワークショップや板敷舞台の設置も可能です。
- ステージ裏を可動壁とし、奥舞台と更にその外側のからくり中庭まで一体的な演出が可能となる構成とします。
- 木ホールと同様、効率の良い搬出入ができる舞台と同レベルの荷捌場や温度・各種備品庫を用意します。

多彩な空間を提供するホール

[②芸術の喜びを甘受できるホワイエ等の周辺空間]

東西北の地域に開かれ、施設の顔となる大小ホールのホワイエ空間

- ホールのホワイエは南北西に開かれ、外周にバルコニーを設けることで休憩時の外部利用を可能とします。災害時は安心避難が可能となります。
- ホワイエはイベントがない日は市民に開放し、憩いと交流の空間となります。
- バルコニーは北側の市有地未利用地への連絡動線ともなります。

[③作り手のことを考えた適切なバックステージ]

「からくり中庭」を中心に回遊可能な楽屋群

- 回遊廊下はシャッターや扉の開閉で、一体利用も個別利用も可能となります。
- 「からくり中庭」は作業場、練習場、搬入路、奥舞台、イベント会場など様々な利用が可能な多目的スペースです。
- 回遊廊下の一部にカンティーネを設け、多目的に利用可能な空間とします。
- 日常は楽屋も市民に開放可能な空間構成としています。

[①石巻の歴史を深く共有できるとともに何度も訪れたくなる魅力的な展示空間]

来館者が「発見」し「発表する」インタラクティブな空間づくり

- 最新技術を駆使して来館者がアクティブに情報を取得し、時には自ら発表する場所を提供します。

市民が「過ごす」姿が展示空間の新しい賑わいや魅力を発信

- 巻石テラス2階に、立ち寄りやすく、居心地が良く、展示物が共にあるデッキを設けます。市民や学生がくつろぎ、学習できる空間を提供し、年間パスの発行等により、リピーター、サポーターを増やし、博物館の活動に参加しやすい環境を整えます。

[⑤貴重な収蔵品を適切に守る収蔵空間]

信頼性の高い収蔵環境と合理的な搬出入動線

- 水害等を考慮し収蔵庫は2階に設けます。調湿機能をもった前室を設け、1階の搬出入口と近接し、大型の収蔵物も吊り上げて直接搬入可能です。

「見せる・伝える」場所づくりへ

- 収蔵空間も回遊動線に組込み、石巻を研究するリアルタイムな姿を来館者に伝えます。

[⑥生涯学習ゾーンを活用した市民の自立的活動を喚起する創作空間]

点と点の創作活動が「繋がり」を生む空間づくり

- 巻石テラスを介して市民の活動が互いに「見る－見られる」の関係をつくります。様々な目的で訪れる人々に、思いがけない刺激、出会いや交流、新しい創造活動を育むきっかけをつくります。

[⑦安全で経済的な基礎と架構の考え方]

RC造をベースにコストを抑えながら、品質確保と工期短縮を実現

- 耐震性能グレードはⅡ類：1.25を確保し、ホールや施設本体は音響的（明瞭性の確保）にも優れた強固なRC造（一部S・SRC造）とすることで、通常よりも高い耐震性能とします。さらに、部材をプレキャスト化して品質安定と工期短縮を両立します。
- 2階建て主体で建物重量を軽くし、底盤レベルを浅くすることでコストを抑える計画とします。基礎形式は、洪積層質土を支持層とする杭基礎（既製杭）を基本とします。

[⑧サスティナブルな環境を実現する熱環境や素材の考え方]

費用対効果に優れた省エネ技術と、陳腐化しないデザイン

- 南向きのファサードをいかして、夏の自然通風やソーラーパネルを導入します。また冬場の暖房等に井水ヒートポンプを活用し、石巻の気候にマッチした空調システムを整備します。大空間にも居住域を採用する最適な省エネルギーを検討します。
- 巻石の渦のデザインモチーフや地元産の木材等、飽きが来ず時と共に風合いや愛着の増す素材を用います。

課題4）その他自由な提案：

活き活きした市民の営みが、新しいまちの魅力を発信する「ステージ」の創出

[①誰もが利用しやすい施設の運用方法のご提案]

時間や曜日、キャストや演目に応じて、「ステージ」の領域が拡張

- 午前中の学校教育の1セクション、午後の自習時間、夕方の親の懇談会や各種クラブ活動、夜の勉強会やワークショップ、そして休日のイベント等、ステージ（利用ゾーン）は上演時間（利用時間帯）、主なキャスト（利用者）と演目（空間の使い方）によって拡張し様々な市民活動に柔軟に対応できる空間構成とします。

できるだけ長い開館時間と、運営費を抑えられる空間デザイン

- 管理事務室を拠点に最小限の人員配置で開放ゾーンが管理できるプランとし、アルバイトや仕事帰りの学生・社会人の利用も視野に入れた運用時間帯の拡張を目指します。

[②新しい市民参加のあり方をご提案]

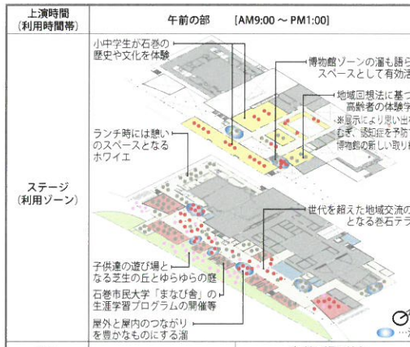
義務ではなく喜びとして市民参加がなされる「気楽」な場所の醸成

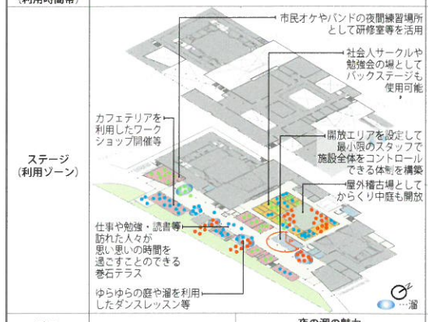
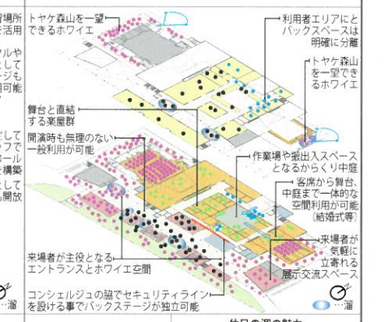
- 周辺の学校等とタイアップし、ホールや施設のスタッフに参加してもらう等、職員と市民が手を取りあって施設を運営していく環境を整えます。

市民の笑顔が施設の魅力を生み、新しい人々を石巻に引込む「場所」をつくる

- 市民や演者、利用者が活躍し、心地よく、楽しい場所を積み重ねていく事で施設の隅々まで笑顔が行き渡り、新しい人々を呼びこむムーブメントを生み出します。

周辺地域とのタイアップイメージ

上演時間（利用時間帯）	午前の部 [AM9:00～PM1:00]	午後の部 [PM1:00～PM6:00]
ステージ（利用ゾーン）		
演目（空間の使い方）	遠足｜課外授業｜生涯学習等	自主学習｜ママ会｜クラブ活動等
キャスト（主な利用者）	● 幼稚園・保育園児等 ● 小中学生等 ● おじいちゃん・おばあちゃん・地元の人等	● 中学生・高校生等 ● 大学生等 ● ママさん・倶楽部・地元の人等 ● 観光客等
	午前の溜の魅力 心地よい日差しの中で、おじいちゃんおばあちゃんなど地域の方々の語らいの場や、子供達の笑い声が聞こえる遊び場となります。	午後の溜の魅力 学生たちが宿題をしたりゲームや雑談を楽しむなど、学校帰りのひとときを通ごすコミュニケーションスペースとなります。

上演時間（利用時間帯）	夜の部 [PM6:00～PM10:00]	休日の部 [土日・祝日など]
ステージ（利用ゾーン）		
演目（空間の使い方）	勉強会｜ワークショップ｜サークル活動等	コンサート｜劇場｜講演会等
キャスト（主な利用者）	● 社会人・大学生等 ● 市民オーケストラ・社会人バンド等 ● 市民劇団・ダンスチーム等	● 来場者（観客等） ● 演者 ● 一般の利用者 ● スタッフ（搬出入等）
	夜の溜の魅力 アルバイトや仕事帰りの学生・社会人が、インターネットや読書など、思い思いの時間を過ごす事のできるプライベートスペースを提供します。	休日の溜の魅力 体験教室や企画展示、創作活動と連携して、休日に親子で遊びに来る事ができるフリースペースを提供します。ホールの開演時でも自由に利用が可能です。

※上記は一例であり、その他様々な施設利用のイメージもご提案可能です。

空間構成図（ステージプログラム表）